

総説

新シリーズ（その2）

身近な害反応から、「害反応-処方カスケード」へ

睡眠剤・抗うつ剤で殺人・躁病様症状など

参考文献

- 1)薬のチェック編集委員会、身近な害反応から、害反応-処方カスケード、薬のチェック 2025 : 25 (119) : 56-61.
- 2)重篤副作用疾患別対応マニュアル「薬剤性せん妄」
<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000842170.pdf>
- 3)薬のチェック編集委員会、治療ガイドライン批判シリーズ（15）せん妄への基本的対処は原因を取り除くこと、薬のチェック 2020 : 20 (91) : 100-104.
- 4)同上、web 資料：せん妄を生じうる主な薬剤とその対処方法
https://www.npojip.org/chk_tip/No91-f05.pdf
- 5) Brunton LL et al. Ed, Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 11th ed McGraw-Hill, 2006
- 6)薬のチェック編集委員会、メマンチン（商品名メマリー）：認知症に対して価値なし、薬のチェック、2016 : 16 (63) : 3-6
- 7) 浜六郎、飲んではいけない認知症の薬、SB 新書、2018
- 8)工藤行夫、宮崎清、武正健一、プロチゾラム過量服用後に殺人を犯し部分健忘を認めた事例、1996、精神医学、**38** (1) : 97-99.
- 9)Kimura T, Yuuki S, Kuga M et al. Activation syndrome caused by paroxetine in patients with dementia with Lewy bodies, Psychogeriatrics 2009; 9: 139-142